

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
I-3-(3)-① 北九州環境みらい学習システムの推進	1	④ ⑪	北九州環境みらい学習システム「ドコエコ！」推進事業	環境学習課	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行う。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合	65.7% (H23年度)	目標 85.0 %	実績 71.7 %	達成率 84.4 %	95.0% (R12年度)	継続	4,120	4,018	維持	7,150	順調	環境ミュージアムに配置している「環境学習コンシェルジュ」と連携して、現在取り組んでいる、インターネット、印刷物等の様々な媒体による情報発信を更に充実させる。更に、エコツアーガイドブックの多言語化や、活用方法の工夫等により、より効果的な情報発信を行っていく。	順調	北九州環境みらい学習システムの推進のため、環境ミュージアムに配置している「環境学習コンシェルジュ」と連携し、環境学習の場の提供や情報発信を行っていく。また、エコツアーガイドブックの多言語化により、国外へ向けての情報発信の強化を図る。
I-3-(3)-② 環境人材のスキルアップと活用	2	④ ⑥ ⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務	環境学習課	北九州市の公害克服の歴史を伝え、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営及び、様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境ミュージアムサポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標 360 回	実績 339 回	達成率 94.2 %	360回 (R3年度)	継続	77,087	77,087	維持	9,225	順調	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務については、近隣施設との連携や、環境ミュージアムスタッフと環境学習サポーター、その他団体との協働等による企画・イベント等を通してより活動の充実を図り、地域環境のリーダーの育成に取り組む。	順調	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務については、近隣施設との連携や、環境ミュージアムスタッフと環境学習サポーター、その他団体との協働等による企画・イベント等を通してより活動の充実を図り、地域環境のリーダーの育成に取り組む。 環境人材育成事業については、啓発やPRを工夫し、環境首都検定の更なる受検者拡大に向けて取り組んでいく。
						環境ミュージアム利用者数（単年度） ※中期目標改訂	134,124人 (H26年度)	目標 140,000 人	実績 114,368 人	達成率 81.7 %	130,000人 (R5年度)									
	3	④	環境人材育成事業	環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人材を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	2,424人 (H26年度)	目標 5,500 人	実績 5,117 人	達成率 93.0 %	5,500人 (R3年度)	継続	14,200	16,067	増額	9,975	順調	今後も引き続き、環境首都検定の受検者数増加に向けて、企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行い、市民全体が環境に関心をもつきっかけとなることを目指す。Web受検をジュニア編と中高生編にも拡大することで、受検者の更なる獲得を目指す。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
I-3-(3)-③ ESDの 推進	4	④ ⑱	ESD活動支援 事業	環境 学習 課	<p>持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。</p> <p>アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合</p> <p>※中期目標改訂</p>		目標	10.0 %	10.0 %	90.0 %									
						—	実績	85.3 %							順調	<p>SDGs達成のためのESDとして、既存のESD活動の継続・強化に加え、更なる活動の発展に向けた取組を行う。</p> <p>加えて、ESD推進拠点を活用し、様々なステークホルダーとの協働により、新たな取組を積極的に展開する。</p> <p>【中期目標の変更内容】 10%（R2年度）としていたが、令和3年度の実績に応じて、目標を上方修正した。</p>	順調	<p>SDGs推進のトップランナーを目指し、その基盤となる持続可能なまちづくりに向けて、ESD活動の全学的普及を強化していく。</p>	
							達成率	853.0 %											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	5	⑫ ⑰	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	途上国技術者を 受け入れる国際研 修や経験豊かな市 内企業技術者等を 諸外国都市に派遣 し、現地で相手都 市も主体的に関 わった実践的な技 術指導を実施す る。 また、国内外の 関係機関と協働・ 連携した調査、情 報収集や発信を行 うとともに、各種 都市間ネットワー クを活用したプロ ジェクトを実施す る。更には市内企 業や国際機関等と 密に連携して、協 力対象国や都市の 「緑の成長」にも 資する環境国際協 力を目指す。	戦略的環境国際 協力事業の件数 (累計)	6件 (H26年 度)	目標 9 件 11 件 14 件	実績 12 件	11件 (R3年 度)	継続	3,000	3,000	維持	6,650	大変 順調	国や国際機関等の補助金も 活用しながら、引き続き事業 を推進する。	大変 順調	引き続き、国や国際機関等 の補助事業を活用するととも に、KITAやJICAなどの関係機 関との連携を図りながら事業 を推進していく。
						達成率 133.3 %													
	6	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰	アジアの環境 人材育成拠点 形成事業	環境 国際 戦略 課	アジアの途上国 やその都市が自ら の力で環境改善の 取組を進めること ができるよう、 JICA等国の支援や 連携により、実践 的な国際環境研修 事業を推進してい く。 海外からの研修 員を受け入れるこ とにより、環境問 題解決の一助を担 うとともに、現地 の環境改善や海外 諸都市とのネット ワーク構築、ひい ては環境国際ビジ ネスへの事業展開 に繋げる。	アジアの環境人 材育成のための 研修員等の受講 者数（単年度）	1,209人 (H26年 度)	目標 460 人 460 人 460 人	実績 1,041 人	460人 (毎年 度)	継続	1,380	1,018	減額	4,400	大変 順調	KITAやJICA等の関係機関と の連携を図りながら引き続き 事業を推進する。		
								達成率 226.3 %											

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標		
Ⅲ-1-(1)-③ まち美化活動の拡充	7	⑪ ⑫ ⑭ ⑮	まち美化等啓 発事業	業務課	北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例(まち美化条例)に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、まち美化事業を実施する。 市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進する。	まち美化ボランティア清掃参加者数(単年度)	131,314人 (H28年度)	目標 138,000人	R1年度 129,001人	R2年度 138,000人	R3年度 138,000人	138,000人 (毎年度)	継続	3,779	3,565	減額	3,075	順調	若者等が清掃ボランティア活動に関心を持つように各種イベント(祭り)等に合わせ、参加の呼びかけを行う。また、観光地等でごみのポイ捨てがなくなるように、持ち帰りの周知等、啓発活動に関係機関と連携しながら実施する。	順調	誰もが地域でのまち美化清掃を常日頃から実行するように意識づけるため、市民に向けて積極的に啓発活動を行う。	
						アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合	47% (H28年度)	目標 60%	R1年度 44.8%	R2年度 60%	R3年度 60%	60% (毎年度)										
Ⅳ-1-(1)-④ 地元製品・サービスの利 活用の推進	8	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境ビジネス創出支援事業	環境産業推進課	市内企業の保有する優れた環境技術や製品の、首都圏や海外地域等での販路拡大支援を行うとともに、国内外企業との連携等を積極的に進めることで、更なる技術やノウハウの導入を図り、環境ビジネスの活性化を目指す。	北九州エコプレミアム選定件数(単年度)	9件 累計190件 (H26年度)	目標 10件	R1年度 5件	R2年度 10件	R3年度 10件	累計240件 (R3年度)	継続	7,379	7,188	維持	5,825	大変 順調	北九州エコプレミアムについては、効果的なPR及び企業ニーズに沿った制度にするため、令和2年度より選定要領を改定し、申請製品及びサービスをSDGsの視点もふまえて専門家に評価してもらうこととした。また、市が広報支援等を行うことで、認定企業のブランド力やイメージを向上させ、多様な人材の確保や新たな販路拡大にまで繋げていくといった効果的なPRが必要である。 北九州エコタウン事業については、環境未来技術開発助成や国等の予算を活用しながら、次世代資源リサイクル拠点の形成を図っていく必要がある。	大変 順調	北九州エコプレミアムの知名度向上と選定商品・サービスのPRに引き続き取り組む。	
						エコタウン事業による投資額(単年度)	9億円 (H26年度)	目標 7億円	R1年度 15億円	R2年度 7億円	R3年度 7億円	7億円 (毎年度)										
						エコタウン視察者数(単年度)	100,332人 (H26年度)	目標 100,000人	R1年度 96,150人	R2年度 100,000人	R3年度 100,000人	10万人 (毎年度)										
								達成率 214.3%														
								達成率 96.2%														

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 （千円）	R3年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費 （目安） 金額 （千円）	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）		
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標	
V-1- (4)-② 再生可能エネルギー・ 基幹エネルギーの 創出拠点の形成	9	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	<新>風力発電を中心とした再生可能エネルギー人材育成事業	地域エネルギー推進課	市内の風力発電を中心とした再生可能エネルギー関連企業に対する大学生等の関心を高め、地元への就職を促進するため、インターンシップ、地域懇話会、シンポジウムなど産学官が連携した取組を実施する。	風力発電を中心とした会議等の実施回数	—	目標	—	—	9 件	45件 (R3~R6 年度)	—	—	5,000	—	8,150	—	風力発電に係る懇話会の拡充、風力発電関連企業等インターンシップの拡充、風力発電に係るシンポジウムの拡充に取組む。	—	さらに、本市の水素社会実現と関連産業の振興を目指し、「北九州水素タウン」において水素利活用の実証・PR拠点の形成に取り組む。
	10	⑦ ⑯	北九州水素タウン実証・PR拠点化推進事業	温暖化対策課	本市の低炭素化と関連産業の振興を目指し、新たな「北九州水素タウン」を稼働するとともに、東京オリンピック・パラリンピック選手村での水素利活用との連携をはじめとして、国内外に向けた水素利活用の実証・PR拠点の形成に取り組む。	北九州水素タウン来訪者数（単年度）	—	目標	500 人	500 人	500 人	500人 (R3年度 まで毎 年度)	継続	13,000	19,500	増額	7,900	大変 順調	引き続き、本市の水素社会実現と関連産業の振興を目指し、「北九州水素タウン」において水素利活用の実証・PR拠点の形成に取り組む。	順調	
V-1- (4)-③ 安定・安価で賢いエネルギー網の構築	11	⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑬	<新>風力発電を中心とした再生可能エネルギー人材育成事業	地域エネルギー推進課	市内の風力発電を中心とした再生可能エネルギー関連企業に対する大学生等の関心を高め、地元への就職を促進するため、インターンシップ、地域懇話会、シンポジウムなど産学官が連携した取組を実施する。	風力発電を中心とした会議等の実施回数	—	目標	—	—	9 件	45件 (R3~R6 年度)	—	—	5,000	—	8,150	—	風力発電に係る懇話会の拡充、風力発電関連企業等インターンシップの拡充、風力発電に係るシンポジウムの拡充に取組む。	—	さらに地域エネルギー戦略を進め、CO2削減・地域経済の成長に資するため、風力、バイオマス、太陽光などの再生可能エネルギーの導入に向けた支援や人材育成を実施し、再生可能エネルギー導入促進を図る。
VI-1- (1)-① 市民の力で環境力を高める仕組みづくり	12	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支援事業	環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。	エコライフステージ参加者数（単年度）	142.4万人 (H24年 度)	目標	100万人 以上	150万人 以上	150万人 以上	150万人 以上 (R3年 度)	継続	14,769	16,844	増額	9,475	大変 順調	エコライフステージは、20周年の節目の事業となる。そのため、これまで以上に企業、NPO等の協力を得ながら、市民環境力の持続的発展のため、大規模イベントやオンラインイベントを活用し、小倉のまちなかだけでなく、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。	大変 順調	エコライフステージは、20周年の節目の事業となる。そのため、これまで以上に企業、NPO等の協力を得ながら、市民環境力の持続的発展のため、大規模イベントやオンラインイベントを活用し、小倉のまちなかだけでなく、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標		
VI-1-(1)-② 地域コミュニティ活動の支援	13	⑫	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量 ※中期目標改訂	50.1kg (H21年度)	目標	単年度目標 設定なし	55.2 kg	kg	単年度目標 設定なし	次期循環社会計画に準拠	継続	221,756	209,114	減額	14,150	順調	家庭ごみとして出された古紙のうち約半分を占める雑がみについて、積極的に広報活動を行い、回収強化を図る。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。	順調	循環型社会形成推進基本計画に基づき、古紙・古着リサイクルなどの地域コミュニティ活動を支援していく。
							実績	34.4 kg														
							達成率	—														
						古紙回収に取り組むまちづくり協議会数	132団体 (H26年度)	目標	137 団体	137 団体	137 団体	全137団体の参加 (毎年度)										
							実績	136 団体														
							達成率	99.3 %														
						一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	26.3% (H26年度)	目標	単年度目標 設定なし	35.0% 以上	単年度目標 設定なし	次期循環社会計画に準拠										
							実績	28.0 %														
							達成率	—														

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
VI-1-(1)-③ 地域の環境特性を活かした取組の推進	14	⑫	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業(剪定枝リサイクル等)を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	506g (H21年度)	目標 単年度目標設定なし	470g 以下	単年度目標設定なし	次期循環社会計画に準拠	継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	地域団体等の参加数の増減に合わせて、回収・リサイクル体制を見直し、効率化を図る。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。	順調	循環型社会形成推進基本計画に基づき、地域の環境特性を活かした取り組みを推進していく。
						※中期目標改訂	実績 468 g	達成率 —												
						市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標 86.9 %	86.9 %	86.9 %										
VI-1-(2)-① 交流の場づくりと連携の強化	15	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	市民環境力支援事業	環境学習課	市民環境力の持続的発展を目指し、環境モデル都市を推進する活動への支援や、市民・NPO、事業者など地域社会を構成する各主体が、情報を共有し、新たな取組を生み出し、発信・啓発する北九州エコライフステージ事業などを行う。	エコライフステージ参加者数(単年度)	142.4万人 (H24年度)	目標 100万人以上	150万人以上	150万人以上	150万人以上 (R3年度)	継続	14,769	16,844	増額	9,475	大変順調	エコライフステージは、20周年の節目の事業となる。そのため、これまで以上に企業、NPO等の協力を得ながら、市民環境力の持続的発展のため、大規模イベントやオンラインイベントを活用し、小倉のまちなかだけでなく、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。	順調	エコライフステージは、20周年の節目の事業となる。そのため、これまで以上に企業、NPO等の協力を得ながら、市民環境力の持続的発展のため、大規模イベントやオンラインイベントを活用し、小倉のまちなかだけでなく、市内外の幅広い世代への普及啓発に取り組む。
							実績 210 万人	達成率 210.0 %												
VI-1-(2)-① 交流の場づくりと連携の強化	16	④ ⑥ ⑦ ⑩ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務	環境学習課	北九州市の公害克服の歴史を伝えるとともに、世界の環境首都を目指して市民の環境力を高めるための環境学習・環境活動・環境情報の総合拠点である「環境ミュージアム」及び家庭での省エネ型のライフスタイルを提案する「北九州エコハウス」等の管理運営及び、様々なイベント、企画等により、環境学習や環境活動の場を提供するもの。	環境ミュージアムサポーターによる出張ミュージアム回数	80回 (H26年度)	目標 360 回	360 回	360 回	360回 (R3年度)	継続	77,087	77,087	維持	9,225	順調	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務については、近隣施設との連携や、環境ミュージアムスタッフと環境学習サポーター、その他団体との協働等により、活動の充実や拡がりを目指す。  【中期目標の変更内容】 北九州市SDGs未来都市計画に基づき変更するもの。	順調	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理業務については、近隣施設との連携や、環境ミュージアムスタッフと環境学習サポーター、その他団体との協働等により、活動の充実や拡がりを目指す。
							実績 339 回	達成率 94.2 %												
						環境ミュージアム利用者数(単年度)	134,124人 (H26年度)	目標 140,000 人	140,000 人	130,000 人										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 （千円）	R3年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費 （目安） 金額 （千円）	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
VI-1-(2)-② あらゆる主体による環境政策への参加の推進	17	④ ⑪	ESD活動支援事業	環境学習課	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育（ESD）」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進する。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既に実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進める。	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合 ※中期目標改訂	目標	10.0 %	10.0 %	90.0 %	90.0% (R3年度)	継続	22,052	20,301	減額	16,950	順調	SDGs達成のためのESDとして、既存のESD活動の継続・強化に加え、更なる活動の発展に向けた取組を行う。加えて、ESD推進拠点を活用し、様々なステークホルダーとの協働により、新たな取組を積極的に展開する。	順調	SDGs推進のトップランナーを目指し、その基盤となる持続可能なまちづくりに向けて、ESD活動の全市的普及を強化していく。 環境人財育成事業については、啓発やPRを工夫し、環境首都検定の更なる受検者拡大に向けて取り組んでいく。
							実績	85.3 %												
							達成率	853.0 %												
						市民のESD活動の認識の向上と活動の普及	目標	—			認識の向上と活動の普及									
							実績	—												
							達成率	—												
18	④	環境人財育成事業	環境学習課	市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」をはじめとする施策に取り組む。	北九州市環境首都検定の受検者数	目標	5,500 人	5,500 人	5,500 人	5,500人 (R3年度)	継続	14,200	16,067	増額	9,975	順調	今後も引き続き、環境首都検定の受検者数増加に向けて、企業や多くの市民が集まる会合などで、パンフレット等を活用した積極的なPRを行い、市民全体が環境に関心をもつきっかけとなることを目指す。Web受検をジュニア編と中高生編にも拡大することで、受検者の更なる獲得を目指す。	順調		
						実績	5,117 人													
						達成率	93.0 %													
					北九州市環境首都検定の受検者数	目標	5,500 人	5,500 人	5,500 人	5,500人 (R3年度)										
						実績	5,117 人													
						達成率	93.0 %													
VI-1-(2)-③ 環境情報の収集・整備・提供	19	② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	環境施策広報事業	環境学習課	世界の環境首都を目指す北九州市の環境施策について、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図る。	アンケート調査における環境活動を行う市民の割合 ※指標廃止	目標	85.0 %	85.0 %		95.0% (R12年度)	継続	9,852	9,799	維持	8,700	順調	環境施策について、SNSを活用した広報・PRを継続して行い、市民の環境意識向上を図るなど、より一層の活用促進を図る。	順調	環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用し、新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、環境のみではなく他部局のイベント等でPR活動を行い環境への意識向上を行う。また、教育施設に「ていたん」を派遣し幼少期からの環境への意識向上の取り組み強化を行う。
							実績	71.7 %												
							達成率	84.4 %												
						アンケート調査における環境マスコットキャラクターの認知度	目標	60 %	65 %	65 %	65.0% (R3年度)									
							実績	65 %												
							達成率	108.3 %												



		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標		
VI-2-(2)-① 市民・企業などによるCO2削減	20	⑦ ⑩ ⑬	北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業	地域エネルギー推進課	環境モデル都市としての市役所の率先垂範を實踐し、省エネ法及び温対法の規制へ対応するため、平成23年度から実施している本事業により市役所の環境・エネルギー対策を行い、更なる省エネ・節電を推進する。	市有施設のエネルギー消費原単位の改善 ※中期目標改訂	H22年度 総エネルギー 使用量 実績 (原油換 算 89,599k l)	目標 81,535 kl	実績 集計中	達成率 —	80,639 kl	79,743 kl	R12年度 までに H22年度 比 20%減 (エネル ギー使 用量原 油換算 71,679k l)	継続	7,880	7,880	維持	5,575	順調	令和3年度は、市有施設の高効率空調等への更新を実施し、評価、公表を行い、市内への展開をするとともに、RE100と組み合わせ、全庁的な省エネ・節電・低炭素化の推進を図る。  【中期目標の変更内容】 目標年度に達したため、目標を更新するもの。	順調	温対計画に掲げる目標達成に向け、国の補助金を活用した様々な事業を展開する。 また、地球温暖化の防止に資する自主的な行動を促すため、市民や事業者に対し、様々な啓発事業を展開する。 10月29日の定例記者会見で、北橋市長より「2050年のゼロカーボンシティ」を表明したところであり、また、来年度途中に改定が見込まれている「本市の地球温暖化対策実行計画」に基づき、「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向け、直ちに着手する必要がある。
	21	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	<新>RE100実現促進事業	地域エネルギー推進課	再生可能エネルギーの活用により、深刻化する気候変動問題への対応と地域活性化への貢献を率先的に進め、市内の使用電力を100%再生エネで賄う北九州市版RE100を図るため、再エネ導入や省エネ方法等の最適化について、実現可能性を調査し検討する。 さらに、低炭素社会の実現に向け、市内中小企業へRE100を促し、自家消費型太陽光発電設備や蓄電池の導入支援する。また、省エネ実践行動の更なる推進、最先端の省エネ機器やエネルギーマネジメントシステムの導入支援を行う。 当事業により環境に配慮しつつ中小企業の競争力を高める。	省エネ投資額 (千円)	336,998 千円 (H28年 度)	目標 218,000 千円	実績 195,641 千円	達成率 89.7 %	105,000 千円	105,000 千円	累計 1,300,000千円 (H28~ R4年度)	継続	—	48,000	その他	4,825	順調	低炭素社会の実現に向け、市内中小企業へRE100を促し、自家消費型太陽光発電設備や蓄電池の導入支援する。また、省エネ実践行動の更なる推進、最先端の省エネ機器やエネルギーマネジメントシステムの導入支援を行う。 当事業により環境に配慮しつつ中小企業の競争力を高める。		
	22	⑦ ⑫ ⑬ ⑰	地球温暖化対策推進事業	温暖化対策課	平成28年8月に策定した「北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画」(温対計画)に掲げた目標の着実な達成に向け、市民、事業者、行政がこれまで以上に計画的かつ効果的に取組を推進する必要があるため、各種調査及び啓発事業の強化等を行う。	CO2削減量(万トン) ※中期目標改訂	CO2削減量18万トン (H26年 度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	令和3年中に改定する次期計画にて目標設定	継続	12,600	11,927	減額	3,650	順調	温対計画に掲げる目標達成に向け、国の補助金を活用した様々な事業を展開する。 また、地球温暖化の防止に資する自主的な行動を促すため、市民や事業者に対し、様々な啓発事業を展開する。  【中期目標の変更内容】 目標年度到達のため。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標	
	23	⑦ ⑪ ⑫ ⑬ ⑰	<新>「脱炭素型ライフスタイル」転換推進事業	温暖化対策課	平成28年8月に策定した「北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画」(温対計画)の改定に伴い、脱炭素社会の実現に向けて市民・企業向けの情報プラットフォームを整備し、「脱炭素社会」のイメージと方法・効果の共有を図るとともに、取組み事例や効果を可視化し、家庭・企業の脱炭素型ライフスタイルへの転換を進めるもの。	CO2削減量(万トン)	CO2削減量18万トン(H26年度)	目標											10月29日の定例記者会見で、北橋市長より「2050年のゼロカーボンシティ」を表明したところであり、また、来年度に改定を見込んでいる「本市の地球温暖化対策実行計画」に基づき、「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向け、直ちに着手する必要がある。 「2030年」と「2050年」の脱炭素社会を、具体的にイメージできる総合サイトを開設し、デジタルツール(視覚情報)等により効果的な周知を図り、脱炭素社会の実現を目指すにあたって、市民や事業者の脱炭素型ライフスタイルへの転換を促すもの。		
VI-2-(2)-② 低炭素社会に貢献する技術開発、製品・サービス提供拠点の形成	24	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術開発助成事業	環境産業推進課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計) ※中期目標改訂	27件(H26年度)	目標	37 件	37 件	38 件								環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく必要がある。  【中期目標の変更内容】 中期目標通り、目標を達成したため内容を更新。	順調	環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく必要がある。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
VI-3-(1)-① 市民環境力による3R活動の推進	25	⑫	古紙・古着リサイクル推進事業	循環社会推進課	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、古紙・古着回収奨励金の交付等を通じ、市民団体による集団資源（古紙・古着）回収活動を支援する。	市民1人あたりの年間古紙回収量 ※中期目標改訂	目標	単年度目標設定なし	55.2 kg	単年度目標設定なし	次期循環社会計画に準拠	継続	221,756	209,114	減額	14,150	順調	家庭ごみとして出された古紙のうち約半分を占める雑がみについて、積極的に広報活動を行い、回収強化を図る。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。	順調	循環型社会形成推進基本計画に基づき、プラスチックごみの資源循環に向けた施策や食品ロス削減策など循環型社会の構築に向けた取り組みを推進していく。
							実績	34.4 kg												
							達成率	—												
						古紙回収に取り組みまちづくり協議会数	目標	137 団体	137 団体	137 団体	全137団体の参加（毎年度）									
							実績	136 団体												
							達成率	99.3 %												
一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	目標	単年度目標設定なし	35.0% 以上	単年度目標設定なし	次期循環社会計画に準拠															
	実績	28.0 %																		
	達成率	—																		
26	⑫		地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業	循環社会推進課	地域団体等が自主的に活動する事業（剪定枝リサイクル等）を支援することにより、地域における自主的な環境活動の拡大と地域コミュニティ活動の活性化を図る。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※中期目標改訂	目標	単年度目標設定なし	470 g 以下	単年度目標設定なし	次期循環社会計画に準拠	継続	9,405	9,405	維持	4,575	順調	地域団体等の参加数の増減に合わせて、回収・リサイクル体制を見直し、効率化を図る。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。		
							実績	468 g												
							達成率	—												
						市民アンケート調査における3R活動の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9%（毎年度）									
							実績	87.4 %												
							達成率	100.6 %												

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
27	⑫		広げよう食品ロス・生ごみ削減の環づくり事業	循環社会推進課	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発や、生ごみリサイクル講座等の実施によって、生ごみの減量化・資源化を推進する。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※中期目標改訂	目標	単年度目標 設定なし	470g 以下	単年度目標 設定なし	次期循環社会計画に 準拠	拡大	5,990	7,800	増額	8,825	順調	食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発のより一層の充実を図る。より多くの市民が、3R意識を醸成できるよう、リデュースクッキング講座や生ごみリサイクル講座等の未実施地域などを対象に、講座実施の働きかけを行う。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。	
							実績	468 g											
							達成率	—											
						市民アンケート調査における3R活動の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)								
							実績	87.4 %											
							達成率	100.6 %											
28	⑫		3R活動推進事業	循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進及び3R活動を行う団体の表彰等により、3R活動の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	目標	単年度目標 設定なし	35.0% 以上	単年度目標 設定なし	次期循環社会計画に 準拠	継続	652	630	維持	7,825	順調	事業者への訪問調査や3R活動推進表彰等を通じて、市民に3R活動が定着してきているため、引き続き啓発活動を行う。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。	
							実績	28.0 %											
							達成率	—											
						市民アンケート調査における3R活動の実施率	目標	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)								
							実績	87.4 %											
							達成率	100.6 %											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
	29	⑨ ⑫ ⑬ ⑭ ⑰	北九州市プラスチックスマート推進事業	循環社会推進課	国の動向と歩調を合わせながら、これまでの取り組みに加え、更なるプラスチックごみの資源循環に向けた施策を推進する。	プラスチック製容器包装の分別協力率 ※中期目標改訂	41.2% (H30年度)	目標 単年度目標設定なし	55% 以上	次期循環社会計画に準拠	継続	12,000	32,000	増額	13,075	順調		今年度策定中の次期循環社会計画（計画期間R3～R12）に基づき、循環型社会形成に向けた取り組みを推進していく。 新型コロナウイルスの影響拡大に伴う新しい生活様式により、使用機会が増加している使い捨てプラスチックについて、広報啓発を強化し、不要な使い捨てプラスチックの排出減少と分別の徹底を図る。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。  【指標廃止の理由】 事業目的に合致する指標に整理した。	
					市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※指標廃止	506g (H21年度)	目標 単年度目標設定なし	470g 以下	次期循環社会計画に準拠										
VI-3-(1)-② 適正な廃棄物の処理	30	⑪ ⑫	「北九州市循環型社会形成推進基本計画」推進事業	循環社会推進課	本市では、「北九州市循環型社会形成推進基本計画」（本市の一般廃棄物処理計画）を策定し、ごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っている。 本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行う。	市民1人一日あたりの家庭ごみ量 ※中期目標改訂	506g (H21年度)	目標 単年度目標設定なし	470g 以下	単年度目標設定なし	継続	6,160	1,085	減額	2,325	順調		次期計画（R3年度作成予定）の初年度を迎えるにあたり、循環型社会形成の推進のため、市民や事業者の取り組み内容や新目標などの周知・啓発を図る。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。	
					一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	30.4% (H21年度)	目標 単年度目標設定なし	35.0% 以上	単年度目標設定なし	次期循環社会計画に準拠									

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標			
VI-3-(1)-③ 産業廃棄物排出量の 減量化	31	③ ⑥ ⑪ ⑫	産業廃棄物処理推進事業	産業廃棄物対策課	産業廃棄物の適正処理・3Rを推進するため、優れた排出事業者・処理業者への認定やインセンティブ付与、排出・処理動向や将来見通しの分析・公表、産業廃棄物3R・適正処理講習会等を活用した適正処理・3R情報の普及啓発を実施する。	優良産廃処理業者の認定件数（単年度）	4件 (H26年度)	目標 2 件	実績 0 件	2 件	2 件	2 件	継続	13,769	12,915	減額	615	遅れ	産廃処理事業者及び排出事業者に対して、適正処理や産業廃棄物の減量化をはじめとした3Rについて、引き続き普及・啓発を図る。また、認定制度の実施を通じて優良な事業者の育成を進め、産業廃棄物処理業界の優良化を推進する。	遅れ	啓発や認定制度の実施を通じて、優良な産廃処理業者、排出事業者の育成を進め、産業廃棄物処理業界の優良化、廃棄物の減量化・資源化を推進する。		
						優良排出事業者の認定件数（単年度）	2件 (H26年度)	目標 2 件	実績 0 件	2 件	2 件	2 件										2件 (R1年度以降毎年度)	2件 (毎年度)
								達成率 0.0 %															
								目標 2 件	実績 0 件	2 件	2 件	2 件											
								達成率 0.0 %															
VI-3-(2)-① 次世代資源循環型産業拠点の形成	32	⑦ ⑧ ⑨ ⑫ ⑬	北九州エコタウン事業	環境産業推進課	資源循環型社会の実現に向けて、環境産業の集積化と環境・エネルギー技術開発の拠点化を図るため、企業支援や国等関係機関との協議のほか、貸付用地の維持管理を行う。	エコタウン事業による投資額（単年度）	9億円 (H26年度)	目標 7 億円	実績 15 億円	7 億円	7 億円	7 億円	継続	22,391	22,391	維持	4,575	大変順調	環境未来技術開発助成や国等の予算を活用しながら、次世代資源リサイクル拠点の形成を図っていく必要がある。	大変順調	環境未来技術開発助成や国等の予算を活用しながら、次世代資源リサイクル拠点の形成を図っていく必要がある。		
								達成率 214.3 %															
						エコタウン視察者数（単年度）	100,332人 (H26年度)	目標 100,000 人	実績 96,150 人	100,000 人	100,000 人	100,000 人										10万人 (毎年度)	
								達成率 96.2 %															

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標		
VI-3-(2)-② 環境分野における技術開発の促進	33	⑦ ⑧ ⑨ ⑫	環境未来技術開発助成事業	環境産業推進課	新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。	本助成事業で助成した研究開発の事業化数（累計） ※中期目標改訂	27件 (H26年度)	目標 37 件	実績 37 件	37 件	38 件	40件 (R5年度)	継続	47,868	20,360	減額	4,595	順調	環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく必要がある。  【中期目標の変更内容】 中期目標通り、目標を達成したため内容を更新。	順調	環境未来技術開発助成を通じた次世代資源循環型産業拠点形成は、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つであり、今後、更に市内企業等支援に注力していく必要がある。	
VI-3-(3)-③ 環境に配慮する消費者(グリーンコンシューマー)活動の推進	34	⑫	3R活動推進事業	循環社会推進課	事業所に対する一般廃棄物の減量化等の推進及び3R活動を行う団体の表彰等により、3R活動の推進を図る。	一般廃棄物のリサイクル率 ※中期目標改訂	30.4% (H21年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 28.0 %	35.0% 以上	単年度目標設定なし	次期循環社会計画に準拠	継続	652	630	維持	7,825	順調	事業者への訪問調査や3R活動推進表彰等を通じて、市民に3R活動が定着してきているため、引き続き啓発活動を行う。  【中期目標の変更内容】 次期循環社会計画の策定に合わせて中期目標を変更する。	順調	循環型社会形成推進基本計画に基づき、プラスチックごみの資源循環に向けた施策など循環型社会の構築に向けた取り組みを推進していく。	
					市民アンケート調査における3R活動の実施率	86.9% (H28年度)	目標 86.9 %	実績 87.4 %	86.9 %	86.9 %	86.9 %	86.9% (毎年度)										
								達成率 100.0 %														

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 （千円）	R3年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費 （目安） 金額 （千円）	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
VI-4- (1)-① 多様な 自然環 境・生 物多様 性の保 全	35	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦 略推進事業	環境 監視 課	都市と自然との 共生「豊かな自然 の恵みを活用し 自然と共生するま ち」を基本理念 に、生物多様性を 保全し、将来にわ たって持続可能な 形で利用が可能な 都市づくりを目指 す。	環境首都100万 本植樹プロジェ クト推進（累 計）	目標	804,000 本	871,000 本	904,000 本	累計 100万本 植樹 (R5年 度)	継続	15,214	14,164	減額	16,300	順調	自然環境保全に関する活動 は、市民とりわけ地域団体の 自主的な活動が不可欠である ため、継続して市民やボラン ティア団体などと協働して自 然環境保全活動を進めてい く。	順調	自然環境保全に関する活動 は、市民とりわけ地域団体の 自主的な活動が不可欠である ため、継続して市民やボラン ティア団体などと協働して自 然環境保全活動を進めてい く。
							実績	727,046 本												
							達成率	90.4 %												
						自然環境保全活 動参加者数（イ ベント等の延べ 参加者数）	目標	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年 度)									
							実績	1,000 人												
							達成率	50.0 %												
VI-4- (1)-② 身近に 自然を 感じる 都市づ くり	36	② ④ ⑥ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	生物多様性戦 略推進事業	環境 監視 課	都市と自然との 共生「豊かな自然 の恵みを活用し 自然と共生するま ち」を基本理念 に、生物多様性を 保全し、将来にわ たって持続可能な 形で利用が可能な 都市づくりを目指 す。	環境首都100万 本植樹プロジェ クト推進（累 計）	目標	804,000 本	871,000 本	904,000 本	累計 100万本 植樹 (R5年 度)	継続	15,214	14,164	減額	16,300	順調	自然環境保全に関する活動 は、市民とりわけ地域団体の 自主的な活動が不可欠である ため、継続して市民やボラン ティア団体などと協働して自 然環境保全活動を進めてい く。	順調	自然環境保全に関する活動 は、市民とりわけ地域団体の 自主的な活動が不可欠である ため、継続して市民やボラン ティア団体などと協働して自 然環境保全活動を進めてい く。
							実績	727,046 本												
							達成率	90.4 %												
						自然環境保全活 動参加者数（イ ベント等の延べ 参加者数）	目標	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年 度)									
							実績	1,000 人												
							達成率	50.0 %												



【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
VI-4- (1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	37	④ ⑮	響灘ビオトープ運営等事業	環境監視課	絶滅危惧種をはじめ、500種類以上の動植物が生息する環境を保全しつつ、市民が見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設として響灘ビオトープの運営を行う。	自然環境保全活動参加者数（イベント等の延べ参加者数） ※指標廃止	目標	2,000 人	2,000 人		2,000人 (毎年度)	継続	45,172	45,343	維持	7,225	やや遅れ	指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行う。	順調	響灘ビオトープにおいては、指定管理者制度による民間活力を利用し、市民と自然とのふれあいの場となる環境学習施設として継続的な運営を行うとともに生物の生息環境の保全にも配慮する。エコツーリズムにおいては、本市の生態系保全を戦略的に推進し、自然環境の状況を市民へ分かりやすい形で周知するため、環境調査等により、平尾台や曾根干潟の自然環境の特徴や現況などを把握・整理する。また、市民参加型の保全活動やツアー型学習会など、魅力発信や地域振興につながる利活用の方法を検討する。
							実績	1,000 人												
							達成率	50.0 %												
						響灘ビオトープでのガイドツアーへの参加人数 ※指標追加	目標			4,000 人	4,000人 (毎年度)									
							実績													
							達成率													
④ ⑥ ⑧ ⑭ ⑮	38	自然環境の保全と利活用促進事業	環境監視課	本市の代表的な自然環境拠点である平尾台、曾根干潟について、自然環境の現況を把握し、その戦略的な保全と生態系サービス（文化的価値や地元産品など）の利活用を通じて、観光などの地域振興を図るもの。	エコツーリズム参加人数（累計）	目標	300 人	500 人	500 人	累計 500人 (H30～ R3年度)	継続	6,300	4,755	減額	7,225	順調	本市の生態系保全を戦略的に推進し、自然環境の状況を市民へ分かりやすい形で周知するため、環境調査等により、平尾台や曾根干潟の自然環境の特徴や現況などを把握・整理する。また、市民参加型の保全活動やツアー型学習会など、魅力発信や地域振興につながる利活用の方法を検討する。 おおむね順調ではあるが、新型コロナウイルス等の影響を考慮し、数値目標の見直しを行った。			
						実績	184 人													
						達成率	61.3 %													

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所 管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
VI-4-(2)-① 生活環境保全 対策の 推進	39	③ ⑥ ⑪ ⑫	不法投棄防止 事業	産業 廃棄物 対策課	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処する。	廃棄物の不法投棄量（単年度）	76 t (H26年度)	目標 110 t 以下			110 t 以下 (H30年度以降 毎年度)	継続	15,593	17,009	増額	11,650	大変 順調	不法投棄防止に向け、監視パトロール等を継続するとともに、監視カメラの設置場所の見直し及び新設を行う。継続して測定網の保守、計画的なモニタリングを行い、環境質の現状把握、維持・向上に努める。	
							実績 50 t	達成率 154.5 %											
					市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処する。	廃棄物の不法投棄件数（単年度）	1,100件 (H26～30年度の平均)	目標 1,100件 以下			1,100件 以下 (R2年度以降 毎年度)	継続	16,978	16,978	維持	6,075	順調	法令に基づき、市内大気環境の状況を正確かつ切れ目なく監視する必要があるため、今後も、監視システムの適正な保守・維持管理を継続する。	
							実績 —	達成率 —											
40	③ ⑪ ⑫		大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境 監視課	大気汚染防止法第22条の規定に基づく大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センターと市内に設置した常時監視測定局から成る測定網の整備・保守を行う。常時監視結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、大気環境の現状把握に努める。	大気環境の適正な把握	—	目標 —			大気環境の適正な把握	継続	16,978	16,978	維持	6,075	順調	法令に基づき、市内大気環境の状況を正確かつ切れ目なく監視する必要があるため、今後も、監視システムの適正な保守・維持管理を継続する。	
							実績 —	達成率 —											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
41	③ ⑥ ⑪ ⑫	環境対策事業	環境監視課	環境監視課	環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動の監視測定（環境モニタリング）などを行い、環境質の現状を把握し、維持・向上に努める。 また、市内企業を対象に、環境モニタリング結果等を共有し、環境保全を一層促進するため、環境モニタリングの結果や環境法令の概要、また不適正事案の防止策等に関するセミナーを実施する。	現状の環境を保全	目標	—	—	—	現状の環境を保全	継続	53,908	52,785	維持	8,325	順調		
							実績	—											
							達成率	—											
						企業の法令順守の徹底	目標	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命令 0件	改善命令 0件 (毎年度)								
							実績	0 件											
							達成率	—											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善				
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
VI-4-(2)-② 自動車 環境対 策の推 進	42	⑦ ⑪ ⑬	エコドラ・ ノーマイカー 普及推進事業	温暖化対 策課	地球温暖化の原 因であるCO2の削減 や、自動車公害の 解決のため、「エコ ドライブ」の普 及啓発や「ノーマ イカーデー」の推 進を図るもの。	ノーマイカー デー実施による CO2削減量（単 年度）	200t (H26年 度)	目標	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	前年度 水準を 維持 (毎年 度)	継続	2,499	2,302	減額	3,650	順調	これまでの取組みに加え、 ノーマイカーに取り組む企業 の拡大や、交通事業者と連携 したキャンペーン等を行うこ とで積極的にPRを行う。
							実績	207 t											
							達成率	103.5 %											
						エコドラ北九州 プロジェクト参 加事業者のCO2 削減量（単年 度）	505t (H26年 度)	目標	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	前年度水準 を維持	前年度 水準を 維持 (毎年 度)							
							実績	570 t											
							達成率	100.0 %											
43	⑦ ⑪ ⑬	燃料電池自動 車導入助成事 業	温暖化対 策課	燃料電池自動車 (FCV)を市内に普 及させるため、車 両等導入費の一部 助成を行う。ま た、災害時におけ る電力供給協力を 求める。	市内における燃 料電池自動車の 普及台数（累 計）	—	目標	300 台	300 台	300 台	R3年度 までに 市内で 300台	継続	4,500	4,500	維持	4,650	遅れ	燃料電池自動車の普及に向 け、導入助成のPRや公用車へ の率先導入・各種イベントで の展示・外部給電デモ・試乗 会の実施など、幅広く市内企 業や市民にFCVの魅力を知っ ていただけるよう、普及に向 けた取組みをより一層積極的 に推進していく。	
						実績	30 台												
						達成率	10.0 %												
					燃料電池自動車 への転換による CO2削減量（累 計）	—	目標	354 t	354 t	354 t	R3年度 までに 354t								
						実績	35 t												
						達成率	9.9 %												

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
44	⑦ ⑨ ⑬		水素エネルギー社会構築推進事業	温暖化対策課	水素利用の拡大 方策、水素エネル ギービジネス実現 に向けた仕組みづ くりの検討を行 う。 また、水素エネ ルギーの社会への 浸透を目指し、 「本市の先導的な 取組」や「水素エ ネルギーが便利で 身近なものである こと」を市民に理 解してもらえよう 啓発を実施す る。	水素ステーショ ンの設置件数 (累計)	1箇所 (H26年 度)	目標 4 箇所	5 箇所	5 箇所	R3年度 までに5 箇所	継続	4,920	4,432	減額	4,650	順調	水素関連企業や自動車関連 企業と情報交換しながら、燃 料電池自動車の普及と水素ス テーションの立地を並行的に 推進していく。	
45	③ ⑥ ⑪ ⑫ ⑭		工場・事業場 監視事業	環境監視課	市内の工場・事 業場に対し、大気 汚染防止法・水質 汚濁防止法等に基 づいて、立入検査 及び排ガス・排水 中の規制項目に関 する測定を実施 し、事業者の環境 法令の遵守を監視 するとともに、環 境管理の取組の促 進を図る。また、 一般市民からの公 害関係苦情・要望 を受け、発生源に 対する指導を行 う。	公害に関する苦 情・要望件数 (単年度)	243件 (H26年 度)	目標 300件 以下	300件 以下	300件 以下	300件 以下 (毎年 度)	継続	25,240	24,821	維持	38,575	順調	工場・事業場への立入検査 や行政測定を継続実施するこ とで、事業者の環境管理の取 組を促進させることにより、 公害の未然防止に努める。	順調
46	③ ⑪ ⑫		大気汚染常時 監視システム 整備保守事業	環境監視課	大気汚染防止法 第22条の規定に基 づく大気汚染状況 の常時監視を行う ため、公害監視セ ンターと市内に設 置した常時監視測 定局から成る測定 網の整備・保守を 行う。常時監視結 果を本市の環境保 全の推進に役立て るとともに、大気 環境の現状把握に 努める。	大気環境の適正 な把握	—	目標 —	—	—	大気環 境の適 正な把 握	継続	16,978	16,978	維持	6,075	順調	法令に基づき、市内大気環 境の状況を正確かつ切れ目な く監視する必要があるため、 今後も、監視システムの適正 な保守・維持管理を継続す る。	順調

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標
VII-1-(3)-① 環境国際協力の推進	47	⑫ ⑰	環境国際協力 推進事業	環境 国際 戦略 課	途上国技術者を 受け入れる国際研 修や経験豊かな市 内企業技術者等を 諸外国都市に派遣 し、現地で相手都 市も主体的に関 わった実践的な技 術指導を実施す る。 また、国内外の 関係機関と協働・ 連携した調査、情 報収集や発信を行 うとともに、各種 都市間ネットワー クを活用したプロ ジェクトを実施す る。更には市内企 業や国際機関等と 密に連携して、協 力対象国や都市の 「緑の成長」にも 資する環境国際協 力を目指す。	戦略的環境国際 協力事業の件数 (累計)	6件 (H26年 度)	目標	9 件	11 件	14 件	11件 (R3年 度)	継続	3,000	3,000	維持	6,650	大変 順調	国や国際機関等の補助金も 活用しながら、引き続き事業 を推進する。	引き続き、国や国際機関等 の補助事業を活用するととも に、KITAやJICAなどの関係機 関との連携を図りながら事業 を推進していく。
								実績	12 件											
	48	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ ⑬ ⑯ ⑰	アジアの環境 人材育成拠点 形成事業	環境 国際 戦略 課	アジアの途上国 やその都市が自ら の力で環境改善の 取組を進めること ができるよう、 JICA等国の支援や 連携により、実践 的な国際環境研修 事業を推進してい く。 海外からの研修 員を受け入れるこ とにより、環境問 題解決の一助を担 うとともに、現地 の環境改善や海外 諸都市とのネット ワーク構築、ひい ては環境国際ビジ ネスへの事業展開 に繋げる。	アジアの環境人 材育成のための 研修員等の受講 者数（単年度）	1,209人 (H26年 度)	目標	460 人	460 人	460 人	460人 (毎年 度)	継続	1,380	1,018	減額	4,400	大変 順調	KITAやJICA等の関係機関と の連携を図りながら引き続き 事業を推進する。	
								実績	1,041 人											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度										中期 目標			
	49	③ ⑪ ⑬ ⑰	日中大気汚染・省エネ対策共同事業	環境国際戦略課	中国におけるPM2.5（微小粒子状物質）等をはじめとする大気汚染については、日本への影響が懸念されており、その対策を講じることについては喫緊の課題となっており、本市では、国の事業を活用し平成26年度から5カ年の予定で、研修生の受入れ、専門家の派遣、共同研究等を行った。 平成30年6月に日中環境大臣間で交わされた覚書に基づき、3年間の事業延長が決定した。なお、令和元年度以降は、日中都市間での連携協力ではなく、環境省と中国生態環境部が決定するプロジェクトに対して北九州市が協力することになる。	現地の環境改善	—	目標	—	—	—	—	—	—	継続	8,011	8,011	維持	15,950	順調	引き続き、中国における大気環境改善及び温室効果ガス削減等について、環境省と中国生態環境部が決定するプロジェクトに対して協力していく。		
VII-2-(1)-① アジア低炭素化センターを核とした都市インフラビジネスの推進	50	⑰	アジア低炭素化センター推進事業	環境国際戦略課	アジア低炭素化センターを中核として、環境に関する多様な技術や社会システム等を海外に輸出することで、地域経済の活性化を推進する。	アジア地域でのCO2排出量を削減	1,635万t (H17年度)	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	H17年度比6%削減 (R2年度)	150%削減 (R32年度)	継続	27,442	26,962	維持	92,375	順調	引き続き、様々なプロジェクトを実施することにより、都市インフラビジネスの推進を図り、市内企業の受注拡大を目指す。	大変順調	今後もアジア地域の低炭素化を推進するとともに、環境国際ビジネスの展開による地域経済の活性化を図る。これまでの成果を踏まえてさらに他都市への横展開を進めるためのプロジェクト実施を推進する。	
	51	⑨	中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業	環境国際戦略課	市内中小企業が所有する既存の技術・製品に関して、海外でのニーズに合わせた現地での事業可能性調査（FS）や実証試験を行うための費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図る。	海外での実証事業等の進出数（単年度）	5件 (H26年度)	目標	3 件	3 件	3 件			継続	8,037	5,037	減額	2,700	大変順調	引き続き、市内企業の海外への技術輸出促進に努める。			

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R2年度 予算額 (千円)	R3年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度									
52		⑨ ⑫ ⑭ ⑰	アジアにおける廃プラスチック対策プロジェクト推進事業	環境国際戦略課	国連環境計画（UNEP）との連携のもと、東南アジア地域の連携各都市において、廃プラスチック対策プロジェクトを中心に新たな事業発掘に努め、循環型経済（サーキュラーエコノミー）を促進する。また、UNEPや、海外を含めた産学官連携により市内企業のビジネス支援を強化することで、これまで本市が注力してきた都市間連携による支援に厚みを持たせ、環境モデル都市としてのブランド力を向上させる。	対象地域におけるパイロット事業着手数	目標		2 件	4 件					—	国連環境計画（UNEP）をはじめ国内外の産学官と連携しながら、海外からの需要が増加傾向となっている廃プラ再資源化や廃プラ適正処理等の環境技術導入を含めた課題解決提案活動を実施し、環境インフラ技術の輸出促進とSDGs推進先進都市としてのブランド力向上を目指す。			
53		⑨ ⑫ ⑭ ⑰	<新>サステナブル環境ビジネス展開事業	環境国際戦略課	「SDGs推進」や「サーキュラーエコノミー推進」に適応する技術や製品を持つ市内中小企業等の海外展開を支援する。これにより、循環型社会及び脱炭素社会の実現に貢献すると同時に、本市の環境ビジネスの「ブランド力の向上」と北九州市SDGs戦略の一つである「技術と経験を活かした国際貢献の推進」を実現する。	海外での実証事業等の進出数（単年度）	目標			2 件					—	本市における環境産業や環境技術の国際的な発展を推進し、本市の環境ビジネスの「ブランド力の向上」と北九州市SDGs戦略の一つである「技術と経験を活かした国際貢献の推進」を実現する。			